

夏季巡検報告：立山火山と飛騨変成岩

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 八木, 祥文 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025732

夏季巡検報告

—— 立山火山と飛驒変成岩 ——

八木 祥文*

日 程 8月1～2日

案内者 黒田 直（静大理学部） 藤吉 瞭（静大教育学部）

参加者 湯山、長島、兼高、大塚、宮川、大塚、半田、八木各会員、他学生5名

実施コース

8月1日 立山駅 ロープウェイ 美女平 バス 室堂 ----- 立山火山 ----- 雄山 ----- 室堂 バス 立山駅

8月2日 立山駅 軌道 サブ谷（常願寺川上流）付近 ----- 立山駅 ----- 千寿ヶ原称名川河岸

立山は富山県の飛驒山脈中にそびえる浄土山、雄山、別山の三山を合わせて称し最高峰は雄山の北に連なる3,015 mの大汝山である。これら主峰は飛驒変成岩からできており火山はない。立山火山は第四紀洪積世に活動した火山で最初は立山温泉付近に火口の中心をもつ成層火山であったといわれる。その後の活動により陥没カルデラを形成し、カルデラ周辺からは溶岩流、軽石流、泥流の活動があった。カルデラ内はその後強く浸食されると共にみくりが池、地獄谷の爆裂火口が形成された。地獄谷は現在も温泉活動が続いている。

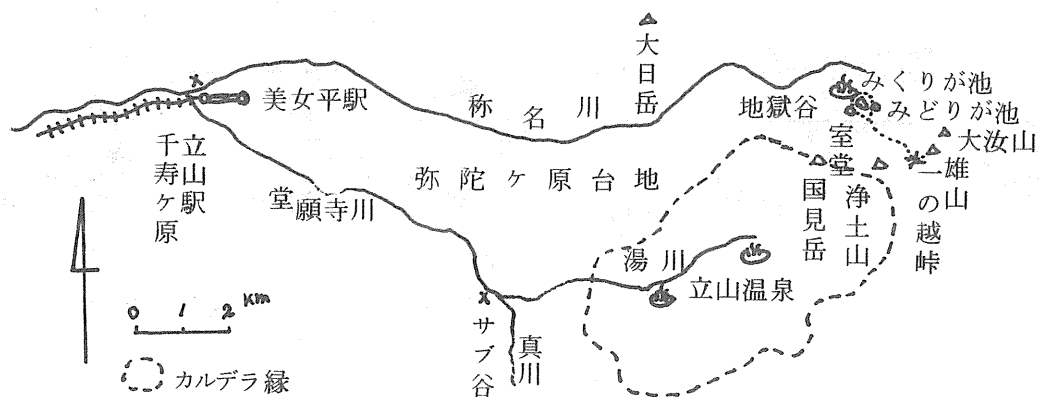


図2 立山火山とその周辺

* 清水東高

1日目は室堂、みくりが池、地獄谷、みどりが池、一の越峠、雄山、室堂と立山火山とその基盤の飛驒変成岩を見ていくコースである。早朝、富士電鉄立山駅に集合した一行は静岡大学の学生と合流し、ロープウェイで弥陀ヶ原台地の末端にある美女平駅におりたつた。この台地は溶岩流、火砕流、軽石流が厚さ500m程堆積してできたもので、ロープウェイの窓から安山岩の柱状節理の露頭が見られた。美女平からバスで一時間程台地上を走ると標高2,500mの室堂に到着する。あいにく立山、剣の峰はガスがかかりその雄姿を望むことはできなかったが山肌に残る雪の上を吹き渡ってくる風はさすがにひんやりとして寒いくらいであった。室堂平は盆地状の地形をしており、水蒸気爆発による爆裂火口のあとにみくりが池、みどりが池、地獄谷が神秘的なたたずまいを見せている。地獄谷は現在も水蒸気、硫気を噴出しており地獄谷にくると死人に会えるという言い伝えもあり、信仰の山立山の一面をみせている。池のほとりの草原には、ハイマツ、ミヤマハンノキの間を埋めるように高山植物が咲き、雷鳥が歩きまわっていた。室堂平から一行は一の越峠を経て立山の一峰、雄山へ向かった。一の越山は雄山、浄土山にはさまれた標高2,690mの鞍部で、ここで少し遅い昼食をとった。一の越から一行は老体にむち打って2,992mの雄山を征服すべく、霧雨の中を頂上めざして出発したのである。かなり個人差はでたけれどもどうやら全員無事登頂に成功し、頂上の雄山神社に巡検の無事を祈願したのである。雄山は立山火山の基盤を成す飛驒変成岩から成り、主に花崗閃緑岩質片麻岩、眼球片麻岩、角閃石片麻岩が見られる。その他に角閃岩、ミグマタイト、スカルン鉱物の柘榴石、緑廉石等の集まりも見られる。雄山から晴れた日に東方を望むと後立山連峰の白馬岳、鹿島槍岳が見え眼下には黒部峡谷が深い谷を刻み、壮年期の雄大な地形を見せている。又、雄山の西側には有名な山崎カール、雷鳥沢が望め典型的な氷河地形が見られる。一行は雄山をあとにして、今夜の宿泊地千寿ヶ原にもどった。

2日目は千寿ヶ原から営林署の軌道に乗って常願寺川上流域に向かった。軌道は遊園地の電車を思わせるものでスイッチバック方式で急斜面を登っていく。千寿ヶ原より9km程の地点サブ谷付近の小さな沢で球状岩を見学した。常願寺川に注ぐ小さな急傾斜した沢を落石に冷汗を流しながら登っていくと、眼球片麻岩中にみごとに球状岩が見られた。

球状岩をあとにして再び千寿ヶ原にもどり、称名川の西岸でスカルン鉱物の採集をした。結晶



球状岩(発見者 美谷島氏)

質石灰岩中に緑色の透輝石、赤褐色の柘榴石、白色の珪灰石の結晶が採集できる。今回の巡検はここを最後に午後3時半頃解散した。